

## 富山市が目指すまちづくりと中心市街地の魅力と活力の創出

### 富山市が抱えるまちづくりの課題

「富山市はこの三、四十年間市街地が薄く広く発展し、全国で有数の車に特化したまちである。」

**課題 1** 車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらいまち  
 ・家の近くで野菜が買えないなど、「車の運転ができない人は住みにくいまち」になっており、高齢化が進むと交通弱者はさらに増え問題は深刻化する。

**課題 2** 割高な都市の維持費、行政運営費を抱えるまち  
 ・このまま薄く広く市街地を拡大していけば、「除雪」「道路清掃」「下水道の管理」といった都市の維持費がさらに増えるまちとなる。

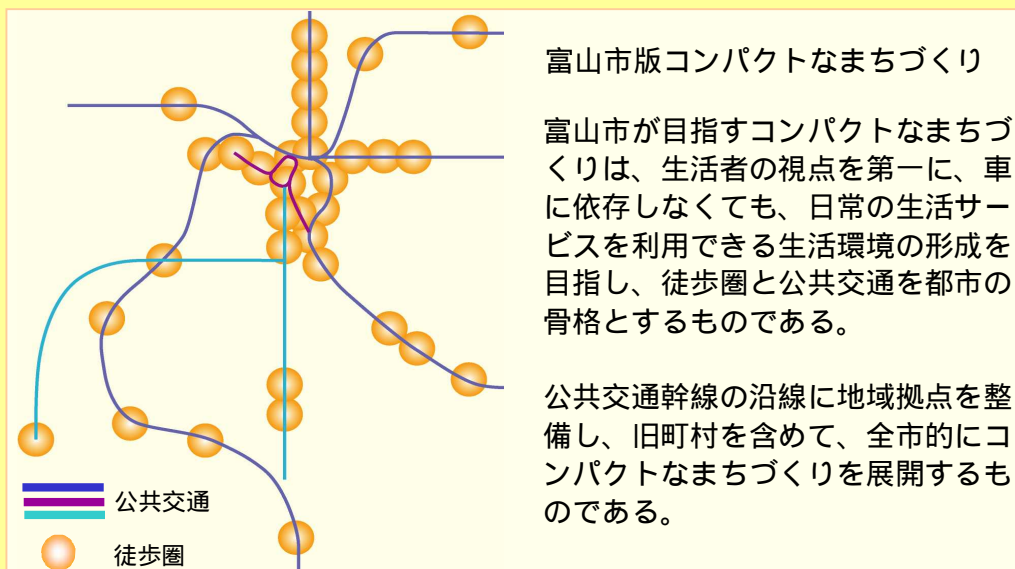
**課題 3** 中心市街地の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失  
 ・活発な経済活動により、大きな税収を生んできた都心の活力が、大きく低下し、都市としての顔、独自性を喪失したまちとなる。

### 富山市のまちづくりの基本方針

#### 公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくり

・鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現する。

コンパクトなまちづくりの都市構造の概念



### “コンパクトなまちづくり”の中で中心市街地の必要性と戦略

最も都市機能が集積した徒歩圏域である中心市街地を、まず活性化させることにより富山市全体を活性化させる

- ・中心市街地は商業、業務、文化、娯楽、教育、行政等多種多様な広域的な都市機能が集積するとともに、利便性の高い市内電車やライトレールといった鉄軌道網が存在している。
- ・加えて、飲食料品、医療機関、金融機関といった生活利便施設も集積している。
- ・平成 26 年度までには北陸新幹線が開業することから、富山市の玄関口となる重要な場所である。
- ・このため、富山市版「コンパクトなまちづくり」を進めていく上で、最もふさわしい場所である。

#### 民間の投資意欲を生むための呼び水としての公共投資を行う

- ・郊外の幹線道路沿いではなく、現在、空き地や青空駐車場となっている中心市街地内の土地に対する投資意欲を生むために、まずは公共投資を行い、民間サイドの投資環境を整える必要がある。
- ・公共投資を進めるにあたっては、中心市街地の人口密度を一定以上に確保するとともに、都市の「顔」としての魅力・活力を創出する観点から、事業を選別していく。

#### 中心市街地を活性化させることで富山市全体にその波及効果をもたらしていく

- ・中心市街地において車に頼らないで暮らせる生活環境を整備するとともに、ライフスタイルの多様化に応えるまちづくりを行うことにより、富山市版「コンパクトなまちづくり」を実現していく。
- ・中心市街地が、日本海側の中核都市である本市の社会経済活動の発展を引き続き牽引していくことで、富山市全体の活力につながっていく。

### 富山市ならではの魅力と活力のある中心市街地の創出

中心市街地を富山市の「顔」、富山市を代表するまちの「顔」として形成し、魅力と活力を創出することによって、富山市全体の活性化につなげていく

#### 充実した機能で、魅力的な暮らしが展開できる

- ・様々なニーズに対応した専門店や、気軽に利用できる休憩・喫茶スペースなどがあり、それぞれの好みに応じて独自の都心ライフを創造・展開できる。
- ・公共交通が遅くまで運行されており、アフターファイブに映画や演劇など最先端の文化を楽しんだあと、食事などをして歩いて帰ることができる。
- ・図書館、美術館、公園、市民学習センターなどの施設が集積し、都心ならではの生活を楽しむことができる。

#### 充実した暮らしのサポートで定住が促進できる

- ・路面電車の電停やバス停の周辺に住むことで、車がなくてもどこへでも出かけやすい。
- ・徒歩圏に日常の買い物機能、各種診療機能、介護機能などの様々な機能が集積し、誰もが気軽に様々なサービスを受けることができる。
- ・ごみ収集（ディスポーザー等）、除雪作業、医療・福祉など、集まって暮らしていることを利点に、充実した暮らしのサポートが提供される。

#### 中心市街地への公共投資を呼び水として投資意欲を促進させる

- ・中心市街地を活性化させ、そのことにより投資意欲を促進し、都心の人口増等による商圏の充実や生産需要増につなげ、富山市全体の活性化につなげていく。